



トラクターによる耕耘作業

り、五大家族とすれば、一戸当り八十二万円程の年間所得をめざして、今後努力していこうというわけです。
その後の県政は、このような「県計画」の考え方を受けて動いてきたといえます。
そこでこれから、予算面その他から、具体的に述べてみましょう。

農業の近代化を促進

「農業の近代化」を進めるといふことで、まず現在当面していることは「農業構造改善事業」を進めていくことです。

すでに三十六年度パイロット地区三地区、一般地域十三市町村、三十七年度一般地域十市町村の指定をうけ（次の表参照）、そのうちパイロットの三地域と、三十六年度の一般の

★農業構造改善事業指定地域

三十六年度

（パイロット地区）託麻村戸島地区、菊水町、菊水中央地区、牛深市浅海地区、（一般地域）玉名市、天明村、小川町、鹿本町、七城村、小国町、蘇陽町、清和村、矢部町、竜北村、田浦町、錦村、五和町

三十七年度

（一般地域）横島村、鹿央村、河内芳野村、松橋町、三角町、甲佐町、湯浦町、相良村、本渡市、河浦町

うちの六地域（鹿本町、七城村、小国町、矢部町、田浦町、五和町）は、今年度からいよいよ事業実施の段階にはいつていきます。

なお、農業の近代化を進めていくためには、相当な資金が必要です。そこで県では「農業近代化資金」として、三十七年度には十三億二千万円とい

う枠をすでに設定しています。

農林水産業において一・六倍、工鉱業において二・九倍、総合して県民所得を二・五倍に引きあげようというわけです。

一人当りであれば、十六万四千円ばかりということにな

う枠をすでに設定しています。

またその前に、三十六年には「農業信用保証協会」を創立し、約六千万円の出資をしています。

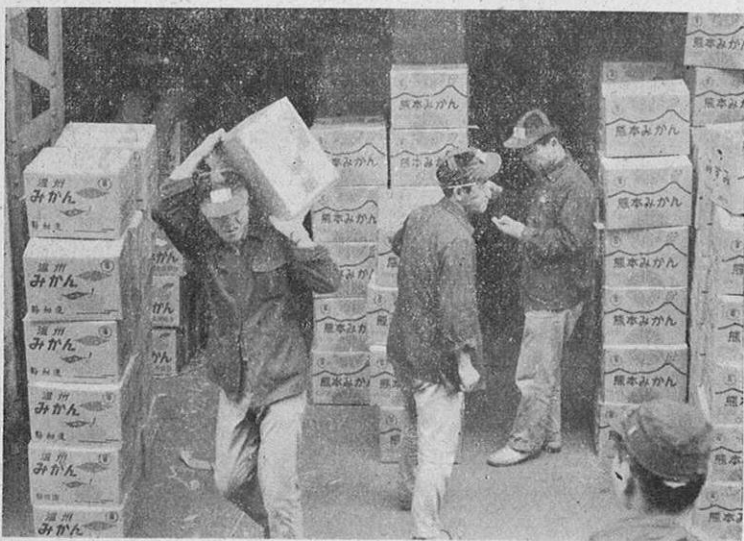
県の歳計余裕金からの貸付け（主として「県信連」に対するもの）も、三十七年度で四億円となっており、これらはいずれも、近代化のための資金源として大きなはたらきをしています。

このような資金措置とともに、おかれていた「農協合併」を促進することも、農業の近代化を進める上で重要な点である。

みかん園の航空防除



好評の熊本みかん（東京市場にて）



同上



るので、これについても努力を続けてきたわけです。

次に、農業のうちでも、どういう部門に力を入れてきたかといえますと、それは特に成長部門である「果樹」と「畜産」の二つです。

急速にのびる「熊本みかん」

果樹については、天草をはじめ各地にある指導所を強化し